

# 2022 年度事業報告

社会福祉法人カメラ

# 2022 年度 事業報告

社会福祉法人カメラリア

## 1. 2022 年度の総括

当法人は乳幼児や児童に係る事業を中心に据え、2023 年 3 月現在で児童心理治療施設 1 施設、幼保連携型認定こども園 1 施設、保育園 3 施設、小規模保育事業 5 施設、放課後児童健全育成事業 4 施設、共同生活援助グループホーム 1 施設の 15 事業所を運営。

2022 年度は各事業所で新型コロナウイルス感染症の対策を踏まえた事業を実施した。保育施設では新型コロナウイルス感染者の増加に伴う登園自粛要請等も複数回あり、感染対策と事業継続の狭間で調整が余儀なくされることもあった。そのため、行事の中止や縮小、保護者参加の行事の見直し等を含め、利用者の安全と安心を図るための感染対策と保育の質の担保を見極めながら、少しずつ対面による事業も再開させた。また、新型コロナウイルス感染者が増加した際には、個人情報に配慮しながらも更なる感染拡大を防ぐための情報提供を SNS やメールを活用して行った。さらに、行事中止等に伴う対応として、日常的な保育活動の様子の動画を定期的に配信し、園での様子も積極的に案内してきた。

事業運営の面では、大村椿の学園及び元気ハウスにおいて年度当初は稼働率の低い状況であったが、年度後半には元気ハウスで稼働率 100%となった。しかし、大村椿の森学園では、2022 年度より増加したものの稼働率 80%台となっており、引き続き厳しい運営が続いている。この背景には、コロナ禍が長期化しストレス増につながり暴力や器物破損を含む入所児童の不安定な状況による受け入れ体制の課題、職員確保の困難さ等が考えられる。一方、保育施設においては安定した利用者数にはなっているが、「①0 歳児の入園希望減及び 1 歳児の入園希望者数増、②待機児童解消」の傾向が見受けられる。0 歳児での入園希望者数減少は育児休暇制度の改正に伴う影響と考えるが、事業所としては「①クラス編成の困難さ、②減収」に繋がる大きな経営課題として注視が必要である。また、大崎市や市川市では待機児童対策としての保育園整備が進んだことで、当法人の事業所でも入園希望者数が減少傾向であり、今後は「選ばれる園」となるための創意工夫がより求められる状況となっている。さらに、要支援児を含む障害児保育、保護者による虐待事案等の対応もあり、保育施設においても困難事例が増加しているため、管理者間での情報共有を図り対応を進めてきた。

施設設備等では、大村椿の森学園の空調機器全面入替を行った。また、大村椿の森学園では污水管の漏水、元気ハウスでは漏水と雨漏りといった経年劣化に伴う修繕等も続いており、中期的な修繕計画の検討も進める時期となりつつある。あじさい保育園で予定した屋上防水シート工事について、自治体との協議により 2023 年度以降に実施することとなった。また、全国的にも不適切保育が話題になっている施設内虐待防止の一環として、保育施設では防犯カメラをリニューアルや増設を図った。なお、2020 年 7 月の大村市での豪雨による職員駐車場等に隣接する河川の復旧工事は安全対策も含め、大村市と継続的に協議を図り、2022 年度に復旧工事が開始され、2023 年度に一部工事を残し完了した。

人材確保や人材育成は引き続き課題を有している。人材確保の観点から実習生の積極的な受入、合同就職相談会への出展、保育補助員制度の活用、各制度を活用しながらの処遇改善（給与等）に加え、インターネット求人サイトの活用を進めたが応募数は伸びない状況である。また、年度中の育児休暇取得者は10名、育児休暇からの復帰は6名であった。人材育成においては、専門的知識や技能の習得に向けた研修等の充実を目指し、各種研修会等はオンラインを中心に参加を進めた。集合型の研修機会も徐々に増加しているが、今後もコロナ禍で培ったオンライン研修の活用は継続していきたい。しかし、他施設等との情報交換や交流等による、対人援助職としてのコミュニケーション技術の向上は、オンラインでは困難な面もあることから、2023年度は対面研修の充実も図りたい。

財政面においては、事業活動収支収入は前年比7.0%増であった。人件費率は68.2%となり、前年比2.6%（支出に占める人件費割合79.3%、前年1.7%増）となり、大村椿の森学園64.1%（3.9%増）、かめりあこども園64.7%（0.7%増）、あじさい保育園81.4%（4.4%増）、いちよう保育園74.1%（3.1%増）、児童クラブ74.0%（11.3%増）になっており、業種や地域を問わず増加している。なお、児童クラブの大幅増加は人員配置の強化によるものである。また、ガスや電気のエネルギーコスト増、食材を含む物品の値上げも続いていることから、今後は人件費以外の事業費においても支出増が顕著になることが懸念される。また、地域によっては保育園における園児数減の傾向もあることから、収入に大きな影響を及ぼすことも考えられ、さらには保育士の配置基準引き上げや働き方改革も求められるため、新規採用数を抑制することも難しく、適切な財政管理と経営判断がより求められる状況となっている。

2022年	6月	大村椿の森学園	空調機更新
	9月	大村椿の森学園	污水管取替工事
	10月	かめりあこども園	害獣対策
		かめりあ児童クラブ	庭門扉交換工事
2023年	2月	かめりあ三城保育園（第二）	室内安全柵の一部改修
		かめりあこども園	非常通報装置設置
		かめりあ三城保育園	職員用トイレ改修
	3月	いちよう保育園	防犯カメラ更新

## 2. 事業所の概要

施設種別	施設名	所在	定員
児童心理治療施設	大村椿の森学園	大村市	55名
幼保連携型認定こども園	かめりあこども園	大村市	190名
保育園	あじさい保育園	市川市	100名
	いちよう保育園	大崎市	90名
	かめりあ天空の森保育園	大村市	105名
小規模保育事業	かめりあ保育園	大村市	12名

	かめりあ第二保育園	大村市	12名
	かめりあ三城保育園	大村市	14名
	かめりあ三城第二保育園	大村市	12名
	かめりあ上諏訪保育園	大村市	12名
放課後児童健全育成事業	かめりあ児童クラブ A	大村市	40名
	かめりあ児童クラブ B	大村市	40名
	かめりあ児童クラブ C	大村市	40名
	かめりあ三城児童クラブ	大村市	40名
共同生活援助事業	グループホーム元気ハウス	大村市	11名

### 3. 事業所の実績概要

#### 3-1 大村椿の森学園

入所児童においては、年間平均数は昨年度より2名程度増加（平均32名）したものの、過去10年間で2番目に少ない児童数となった。通所児童においては、年間平均数が3名程度増加し、例年並みとなった。治療においては、個別の心理面接に加え、コロナ禍も意識した小集団活動や分散した活動を中心に取組みを継続した。特に新型コロナウイルス対策としての生活空間の区分け、マスク着用や手指消毒等の基本的な感染対策、積極的な検査等を図った。2023年1月に児童と職員の感染が相次いだが児童と職員が一体となり乗り切ることができた。同時に、コロナ対策の兼ね合いから家族交流等を対応できない場面もあり、家族治療としての環境を十分に整えることができなかった。また、児童全体の問題行動としては、児童による暴力行為や器物破壊が多発した。さらに分教室でも他学年に対する授業妨害、児童間の言い争い、教職員への暴力、器物破壊、不登校や途中帰園が相次ぎ、分教室と施設が積極的に連携し粘り強く対応を図った。2022年4月には新卒者を含む複数の職員採用を行い、新型コロナウイルス感染対策に伴う業務負担が増大の中でも余力のある人員配置を図ったものの、離職もあり引き続き課題が残った。環境面においては、破損等による修繕だけでなく、故障が続いていた空調機器の全館リニューアル、厨房に向かう污水管入替工事を行った。また、児童が自由に活用できるWi-Fi環境を整備するための検討委員会を立ち上げ、2023年度中の運用開始を目指し準備を進めている。

#### 3-2 かめりあこども園

4月は199名でスタート、3月は221名で終了した。安定した園児数の利用はあるものの、1号入園希望者が減少傾向にあるため、近隣園の動向も調査しながら今後の在り方は再考も必要である。また、要支援児の増加により、配置基準通りの職員数では十分に安全な教育保育環境を整えることができず、園児が安全に過ごす環境づくりを優先し園独自の職員配置を図った。

新型コロナウイルス感染症の感染予防は継続的に行ってきたが、感染拡大時には学年登園自粛要請を年中（4歳児）3回、年長（5歳児）1回、2歳児1回の計5回実施。重症化した園児や職員はいなかった。園行事はコロナ禍で中止してきた運動会をシーハットおおむらで5歳児のみであつ

たが実施することができた。コロナ禍で教育保育内容や環境整備の見直しを行いつつ、戸外遊びの時間の拡大、職務整理を進めた。また、保護者からのご意見に応え、園児用長ズボンを導入。排泄時の身軽さや怪我防止等にもつながり、保護者から好評となっている。さらに園内活動の様子を動画配信、保護者アンケートのオンライン実施をするなど、ICT化も進めており、今後は更なる活用も検討したい。

一方、職員確保の面では課題も多く、子育て支援員や補助員（無資格）も採用し、職員の業務負担の軽減を図った。新型コロナウイルス感染症による出勤停止に伴う職員数減に対しても全職員でカバーし乗り切ることができた。職員研修ではオンラインを活用した外部研修に参加しスキルアップを図り、園内研修も進め、特に今年度は不適切保育についても話題にしてミーティング等を行った。子育て支援センターの活動は新型コロナウイルス感染対策を図りながらも継続的に実施した。

### 3-3 あじさい保育園

不適切な保育の防止に向けて、チェックシートや自己評価シートの結果を活用し、課題や疑問点を挙げ、各クラス間或いは職員間でも検討を重ね、当園における保育内容や取組み方を再確認した。また、「子どもの主体性」を育てことを目指し、各クラスでの環境設定、保育への取組みを行ってきたが、園全体としての取組みに発展できなかった。

職場環境の見直し策として、各クラスにおいて複数担任を図ったことで、事務作業の分担化、精神的、肉体的、負担の軽減に繋がったが園内の係業務については職員間の負担差を解消できなかった。また、要支援児の対応については研修を通し共通理解のもとで取組みをできたが、その他の業務面では職員間における情報共有でも個人差が大きく、職員全体の意識改革は今後の課題もある。ICT活用で保育事務の軽減を目指したが改善には至らなかった。保護者に向けては、未満児クラスに対して、保育参観の代替として園内の様子をライブ配信した。今後も ICT ツールの活用は検討していきたい。

### 3-4 いちよう保育園

環境要因に伴う一人ひとりに応じた保育では、園児の見方や考え方に関心を寄せる姿勢が定着してきており、クラス担任間・未満児や以上児同士で、保育者一人ひとりが日頃より情報を発信する様子が多く見受けられた。また、2022年度は、園児・保護者共に配慮が必要な家庭が増加。担任では対応に苦慮し、園長・主任を交えて状況を見極めて対応したり、関係機関と共有して進めたりという事案もあり、2023年度も継続して適切な関わりを行っていく。保護者支援では、円滑なコミュニケーションを心掛け、日々のやり取りや保護者アンケート等を活用し、よりよい実践を目指してきた。職員の育成では専門知識・技術の向上を図るため、オンライン研修を積極的に活用した。特に、新型コロナウイルスの濃厚接触者等に該当し実務的な業務が出来ず、在宅勤務等を余儀なくされた際に、自己啓発に取り組み、実務と関連付けた実践を意識して行う姿が顕著であった。また、各職員が他職員の対応や園児の様子について、気兼ねなく意見交換できるようになってきており、気づきと改善が迅速に行われている。個人面談や自己評価を活用し、職位による業務フォロー、職責理解の向上も図った。子育て支援として、いちようマルシェ(子育て支援活動)を完全予約制 20組限定で開催。参加者の中で、第一子のお子さまがいるご家庭は、「保育施設」というところ

のイメージが付かず、実際に園内に入り職員と話しをする中で理解を深めるきっかけとなった。

### 3-5 かめりあ天空の森保育園

2022年度は108名でスタート、新型コロナウイルス感染者が増加する中、通算5回（計13日間）の登園自粛があり、家庭保育協力を依頼することもあった。また、コロナ禍での行事運営については、職員も円滑に行えるようになり、同時に活動の様子を迅速に動画配信することで、保護者からの高い評価に繋がったと考えられる。立地を活かし自園でしか体験出来ない旬の収穫物（たけのこ、梅、栗、シイタケ、レモンなど）を使った食育活動や体験活動を今年度は積極的に取り入れた。職員に対しては、園内公開保育を行い相互の学び合いによる保育技術向上、園外での事故や怪我再発防止を含めた安全管理、業務にメリハリをつけ言葉遣いや立振る舞いの改善と保護者連携の強化を図った。下半期には職員一人ひとりの意識も変化したが、業務負担の強弱、調理室職員とのコミュニケーションの在り方は今後の課題である。また、家庭における虐待通報事案も複数件あり、市や児童相談所とのやりとりを進めた。子どもからの発言や様子、保護者からのSOSを見逃さず、継続的なサポートも行っていきたい。また施設整備で園児保護者が通る通路に雨どい設置、遊戯室のカーテン設置、豪雨時の園舎裏土砂流れ込み対策として植栽部整備工事を行った。

### 3-6 かめりあ保育園

4月は13名でスタートし9月から0歳児が順に入園し年度末15名となる。小規模ならではの家庭的な保育ができたが、新型コロナウイルス感染症により職員、園児が順次感染し、登園自粛措置となり、隣接するかめりあ第二保育園とも交流活動を制限。保育活動が制限されたことにより人間関係の関わりや共同性の経験不足が懸念されたが、コーナー遊び等を充実させながら年齢別の遊びをそれぞれ提供し、十分に遊び込める環境を整え対応した。職員については、オンライン研修を積極的に受講し保育の質の向上に努め、職員1名が安全管理士を取得した。また、虐待や不適切保育についても定期的に園内研修を行い、全職員が自身の保育について振り返る機会を設け、保育の向上を目指すことができた。

### 3-6 かめりあ第二保育園

開設2年となり、6月に初めての保育参観を実施。コロナ禍でもあるため、保護者2名までと人数制限を行い、給食を食べる様子を参観する機会を設けた。園内の行事は予定通り実施したが、9月は隣接するかめりあ保育園の新型コロナウイルス感染症による登園自粛期間に伴って、翌月へ延期し開催した。また、保育の様子を保護者へ毎月動画配信し、園の様子を伝える手段として定着した。一人ひとりの個性を認め、柔軟に対応していくことができ、園児の様子を登降園時に保護者に直接伝え、家庭との連携も図ることができた。職員については、隣接するかめりあ保育園との連携を図り、情報共有することを心がけた。また、安全管理士研修を受け、園内研修等で周知することで、園内外の環境整備を見直し、一人ひとりが安全を意識した保育を行うことができた。さらに、常勤職員による自己評価の結果は集計し、保護者向けに掲示し公開した。

### 3-7 かめりあ三城保育園

年間指導計画及び月指導計画に基づき保育を実施。新型コロナウイルスを含めた感染症やクラスターや大きなけがが病気等なく安全に過ごすことができた。保護者参加の行事に関しては感染拡大防止のため、各家庭に参加人数の制限等の協力を頂きながら実施。安全管理に関しては、園外の安全管理講習や防犯の講習等を受講、不適切保育に関しては、再度子どもへの関わり(子どもの人権・人格の尊重)について全職員で確認し、保育の質の向上を目指した。職員の休憩時間確保や有給休暇の取得率の向上に努めた。

### 3-8 かめりあ三城第二保育園

感染症拡大防止のため、消毒や換気等の対策を職員一体となって実施。結果、登園自粛など休園に至るまで流行することなく過ごすことができた。そのため、隣接するかめりあ三城保育園との交流も状況に応じて工夫をしながら昨年度よりも実施することができた。職員研修ではリモート研修だけではなく、対面による研修も増加して、研修報告会を行うことで職員間の意見交換や保育を見直すきっかけとなる。また、リーダーを中心に保育を行う中で中堅保育士にも要務を任せるなどそれぞれの役割が定着し始めた。

### 3-9 かめりあ上諏訪保育園

園児数では、0歳児の入園が穏やかなペースであったが下半期には5名以上の入園となった。また、職員のキャリアアップ研修を常勤職員4名が受講済み。担当クラス以外の園児も気掛け全員が個々の成長を把握できるよう情報共有を密にしたチーム保育ができるようになってきたが、伝達遅れ等もあるため引き続き改善も必要である。さらに、職員の休憩コーナーを設け職場環境の充実を図ったが、場所や交代等に時間を有したことや新型コロナウイルス感染予防の兼ね合いで、十分な活用ができなかった。

### 3-10 かめりあ児童クラブ A、B、C

昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染対策を行いながらの活動となった。大村市内全域の小中学校においても2022年3月頃から新型コロナウイルス感染が拡大し、年度当初は学級閉鎖等が相次いだ。その影響から大村市と協議し、5月31日から6月4日までを自粛要請期間に指定された。この際、これまでABCのユニット分けは竹松小学校と富の原小学校が混在した分け方になっていたが、学級閉鎖や当施設が自粛要請に指定された場合に小学校別にユニット分けした方が対応や管理が容易であることから、ABCのユニットを再編することになった。その後、7月頃から次第に感染状況は落ち着き始め、熱中症対策を考慮して活動場面や状況に合わせてマスクを外す機会も増加。2023年に入ると感染者報告はほとんどなく、基本的な感染症対策を継続しながらの活動となった。2021年度は、新型コロナウイルスの影響で自宅待機や登所自粛の動きから、家庭保育が可能と判断した児童の退所が数件あったが、2022年度にその影響はなく、安定した児童数の確保ができていた。2022年度4月も28名の新1年生の入所があり、毎年30名前後の新規入所が見込まれている。児童数の増加の点でいえば、新型コロナウイルスの影響もあると考えられるがこの数年は児童数80名前後で推移しており、まだ定員数を満たしておらず児童数の増加がみられていな

いので、途中退所の児童数も注視し運営していく。また、今後の運営の在り方として、開所日数と職員配置等についても見直しを行った。特に土曜日については、これまで ABC の 3 施設を開所していたが、児童数が少ないことと職員配置を適正化するために合同開所として 1 施設以上の開所を実施した。そのため開所日数が減少し収入が減少した。

### 3-11 かめりあ三城児童クラブ

昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染対策を行いながらの活動となった。大村市内全域の小中学校においても 2022 年 3 月頃から新型コロナウイルス感染が拡大し、年度当初は学級閉鎖等が相次いだ。その影響から大村市と協議し、4 月 5 日から 4 月 9 日までを昨年度に引き続き 2 度目となる自粛要請期間に指定された。その後、7 月頃から次第に感染状況は落ち着き始め、熱中症対策を考慮して活動場面や状況に合わせてマスクを外す機会も増加。2023 年に入ると感染者報告はほとんどなく、基本的な感染症対策を継続しながらの活動となった。2021 年度は 100%超の入所児童数で運営していたが、児童数の多さから児童への迅速な対応が困難な場面等もみられ、定員 40 名に近づけるために退所児童が出て 40 名までは追加受け入れは行わなかった。2021 年度末には 44 名、2022 年度への継続は 36 名となった。そのため 2022 年度の新規受け入れは 4 名（1 年生 3 名、2 年生 1 名）にとどまり、本来は受け入れが必要な低学年の入所が難しい状況となったため、段階的に受け入れる学年を小学 4 年生までとして新 1 年生が入所しやすい環境づくりを検討したい。また、職員配置の見直しの一環として職員採用を積極的に行った。

### 3-12 グループホーム元気ハウス

2022 年度の入居者数の推移としては、2022 年 4 月は入居者 8 名から開所し、6 月末には 1 名が退所し、一時は入居者が定員 11 名に対して 7 名まで減少した。それまで新型コロナウイルスの影響で見学や体験入所が見送られていたが、7 月頃から次第に受け入れる体制を整え、関連医療機関や相談支援事業所と連携を図り、下半期には新規入所が 4 件あり、2023 年 1 月に満床となった。新規入居者の年齢は 30 代 1 名、20 代 3 名となっており、これまで高齢の入居者が多かったこともあり、施設内で高齢と若年の 2 極化となっている。生活様式の違い等から入居者間で問題発生を懸念していたが、実際はお互い過干渉になりすぎず安定した生活を送ることができた。今後の課題としては、当グループホーム退所後の住居について入居者のニーズに合わせた対応が必要になってくる。新規入居者には就労移行支援に通所している者もあり、若年層にとっては就労支援等を視野に入れたグループホームや単身生活への移行支援が必要になり、一方、高齢の入居者にとってはより支援や介助体制が充実した高齢者入所施設への移行支援が必要になってくる。どちらへの移行についても対応できるように相談支援事業所等と連携を高めていきたい。施設整備としては、アンテナブースターの故障による機器入替工事、水道料金の検針の際に発覚した漏水や非常階段壁面の雨漏りが見られ、2023 年度に工事や修繕等を行う予定になっている。今後も継続的に建物の老朽化による修繕費が発生する可能性がある。

## 4. 法人本部、全事業所に係る実績

### 4-1 理事会、評議員会

複数の新規事業を展開したことから、法人内の意思決定を諮るため、理事会を7回開催、評議員会を1回開催し、法人としての組織統制と牽制を図った。

・役員数 評議員7名、監事2名、理事6名

・理事会 7回開催

2022年4月18日、4月26日、6月1日、8月26日、10月18日、12月20日

2023年3月23日

・評議員会 1回開催

2022年6月22日

### 4-2 人材育成と人材確保

人材育成において、階層別合同研修や管理職研修等を予定していたが各事業で新型コロナウイルス感染拡大の時期が異なったことから、法人全体での研修開催が困難であったことから、本部から情報提供を行いながら各事業所で実施した。また、施設長間で実施する「管理運営会議」を継続し、危機管理や財務管理も含めた報告の機会を設け、施設長の研鑽を図った。「管理運営会議」では新型コロナウイルス感染予防、処遇困難な家庭や子どもの対応等、幅広く議題として取り扱うことで、法人としての共通理解を図る取り組みも進めることができた。

人材確保においては、実習受入等も積極的に行ったが、十分な人材確保には至らなかった。養成校等への訪問も困難なことから、インターネット求人サイトの活用、合同就職相談会にも出展するなどしたが、期待するような応募数や採用まではつながっていないことから、次年度以降は人材確保の更なる強化を図りたい。

### 4-3 法人本部機能の強化

事務処理統一化に向けて、人事管理等のICTシステムを導入。2023年度上半期に試験運用を開始、段階的に運用範囲を拡大し、書式等の一元化及び標準化を目指したい。また、大村市内の保育部門では事務局として、事務機能を一元化し、効率的かつ正確な事務処理を図り始めたが、人員不足による負荷もあることから、採用強化も図りたい。

### 4-4 その他

ホームページによる情報公開及び各事業所における情報発信は適宜実施した。SNSを通じた保護者への情報伝達、動画サイトを活用した保育の様子を保護者に定期的に紹介する等、積極的な情報発信も行った。また、苦情対策は要綱に従い対応し、苦情解決第三者委員の活用までには至らなかった。安全管理面においては、日常的な安全点検、計画的な避難訓練の実施、災害時を想定した非常食体験等にも取り組んだ。その他に2022年度は税務調査が実施されたが、特に指摘される事項はなかった。

#### 【寄付者等】

西日本新聞民生事業団、九州ろうきん、長崎県遊技業協同組合、一般社団法人ひとり親福祉会、つなぐBANK、フードバンク協和、大村市 他

#### 【指導監査】

2022年7月21日 大村椿の森学園  
2022年9月8日 かめりあ天空の森保育園  
2022年9月8日 かめりあこども園  
2022年10月13日 かめりあ第二保育園  
2022年11月30日 かめりあ三城第二保育園  
2023年2月14日 あじさい保育園

※いちょう保育園は書類監査のみ

## 5. 地域貢献への取組み

乳幼児や児童に係る地域のニーズ、社会問題に幅広く貢献できるような取組みを実施した。また、2022年度は地域貢献活動として「フードバンクシステムによる、ひとり親家庭生活困窮世帯への「宅（食）所」「健康」「相談」総合支援に関する運営に参画した。

### 5-1 地域の子育て、児童福祉等に係る連携

- ・ 地域の子育て、児童福祉等に係る会議への参加

大村市要保護児童対策地域協議会、大村市相談業務担当者会、大村市子ども安全管理士協会、市川市幼児教育審議会、大崎保育研究会委員会、つなぐBANK 他

### 5-2 地域の子育て、児童福祉の人材育成に係る取組み

- ・ 教職員等の施設見学及び児童虐待等に係る講義

2022年度大村地区初任者研修（特別支援学校） 他

- ・ 外部機関の研修会等における講師派遣

2022年度児童福祉司任用後研修、大村市子育て支援員研修講座

- ・ 各種実習生の受入（27件／延べ33名）

長崎大学、長崎純心大学、活水大学、長崎国際大学、長崎女子短期大学、近畿大学九州短期大学、長崎医療こども専門学校、東北生活文化大学短期大学部、宮城誠真短期大学、和洋女子大学、東京家政大学（短期大学部）、東京福祉専門学校、竹早教員保育士養成所、シルバー人材センター（保育支援員研修）

- ・ 職場体験等の受入  
長崎県立大村特別支援学校西大村分教室、大村市立郡中学校、大村市立桜が原中学校  
大村市立西大村中学校
- ・ 地域との交流  
いちょうマルシェ（子育て支援）の実施
- ・ 施設見学等  
長崎県児童相談所職員、開成学園職員 他

### 5-3 寄稿、発表

- ・「心理治療と治療教育 第32・32号」 「大村椿の森学園でのトラウマインフォームドケアの取り入れ」（大村椿の森学園 山内奈緒子・吉村宣彦・山口和浩）

## 6. 法人の沿革

- |           |   |
|-----------|---|
| 2002年 5月  | ・ 社会福祉法人カメラア設立  |
| 2003年 4月  | ・ 情緒障害児短期治療施設 大村椿の森学園開設                                       |
| 2006年 5月  | ・ 大村椿の森学園 多目的施設竣工   |
| 2008年 3月  | ・ かめりあ児童クラブ開設   |
| 2008年 4月  | ・ 大村椿の森学園 定員変更（入所定員を35名から40名へ変更）<br>・ 厚生労働省 2008年度障害者保健福祉推進事業 |
| 2009年 4月  | ・ 大村市立竹松幼稚園、竹松保育園の民営化に伴う事業譲渡により<br>かめりあこども園の事業開始              |
| 2010年 3月  | ・ 大村椿の森学園 内部改修工事  |
| 2011年 4月  | ・ いちょう保育園開設<br>・ あじさい保育園開設                                    |
| 2014年 7月  | ・ かめりあこども園新築移転  |
| 2015年 9月  | ・ 小規模保育園 かめりあ保育園開設  |
| 2016年 4月  | ・ 小規模保育園 かめりあ三城保育園開設  |
| 2016年 12月 | ・ 大村椿の森学園 グラウンド竣工   |
| 2017年 4月  | ・ 児童福祉法改正に伴い、大村椿の森学園の施設種別名称変更<br>児童心理治療施設 大村椿の森学園             |

- ・かめりあ富の原児童クラブ開設
- ・かめりあ三城児童クラブ開設
- 2018年 1月 ・かめりあ三城第二保育園開設
- 2018年 3月 ・かめりあ多目的棟ビル竣工
- ・大村椿の森学園 学習棟整備
- 2018年 4月 ・かめりあ児童クラブをかめりあ原口児童クラブへ名称変更
- ・かめりあ富の原児童クラブをかめりあ児童クラブへ名称変更
- ・かめりあ児童クラブの新築移転
- ・かめりあ児童クラブ B、C 開設
- ・大村椿の森学園の教育体系が県立大村特別支援学校西大村分教室に移管
- 2018年 11月 ・共同生活援助事業 グループホーム元気ハウス開設
- 2019年 1月 ・小規模保育園 かめりあ三城第三保育園開設
- 2019年 3月 ・かめりあこども園 運動場拡張整備
- 2019年 12月 ・かめりあ天空の森保育園 職員駐車場整備
- 2020年 3月 ・かめりあ天空の森保育園 竣工
- 2020年 4月 ・かめりあ天空の森保育園 開設
- 2020年 8月 ・かめりあ原口児童クラブ 事業廃止
- 2021年 3月 ・あじさい保育園 一時保育事業廃止
- 2021年 4月 ・小規模保育園 かめりあ上諏訪保育園開設
- ・小規模保育園 かめりあ第二保育園開設
- ・かめりあ三城第三保育園をかめりあ三城第二保育園へ名称変更
- 2021年 9月 ・かめりあ天空の森保育園 園庭整備
- 2022年 6月 ・大村椿の森学園 空調機器リニューアル

以上